

令和 4 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立桜丘高等学校

調査全体の日程

調査日：令和5年3月23日

調査対象校：横浜市立桜丘高等学校

調査チーム：鈴木 俊彰（横浜国立大学教育学部教授）

平林 善光（横浜市立岩崎中学校 校長）

小宮 健（横浜市立桜台小学校 校長）

松村 智史（東京都立大学研究員）

篠原 祥子（本校 PTA 代表、保護者）

畑中 由美（本校 PTA 代表、保護者）

太田 直子（桜基金事務局 副会長）

小柴 邦幸（桜丘高等学校同窓会会長）

土屋 稔明（桜ヶ丘東部自治会前会長）

白石 勝己（桜ヶ丘東部自治会会長）

記録等担当者 横浜市立桜丘高等学校 学校運営協議会委員

学校運営協議会 第1回 令和4年10月14日 校長室にて開催

第2回 令和5年3月23日 校長室にて開催

学校運営協議会委員より

自己評価書へのご意見等

- (1) 魅力ある高校教育の推進状況
- (2) 教育活動の状況
- (3) 学校経営の状況
- (4) いじめへの対応について
- (5) その他

(1) 魅力ある高校教育の推進状況について

○「進学指導重点校」について。高い進学実績を上げている他の市立高校と比較して、現在の本校の実績と指導をどうなのか知りたい。現役進学多数であり指導の成果は上がっていると思う。

○教員養成講座については期待をしている。また特色を前面に出していくことは在校生にとって意識を高めることにつながり、また、進路選択をする中学生にとっても重要な選択のポイントとなる。

(2) 教育活動の状況

○課題探究学習について。生徒の桜ESDに対する肯定的意見は8割を越えている。今後も、研究倫理マナーを踏まえながら、主体的に探究活動を継続して欲しい。

○学校評価シート(生徒用)の項目4「先生はあなたの不安や悩み事などについて親身になって相談にのっていますか」との回答では、令和3年度、令和4年度共に9割の生徒が肯定的な意見である。長期休業明けに行う面談等が成果を収めているようなので、今後も継続していくべきだ。

(3) 学校経営の状況

○学校の情報化について。オンライン授業については多くの教員が実施しており、コロナ禍での各教員の努力を窺い知ることができた。

○「学園通りコンサート」をはじめ、地域や保護者と連携をし、地域と交流する場面が制限を設けながら再開した年であった。

文化祭などの行事が再開されるにあたっては、地域や中学生等に対する広報活動に工夫を凝らして欲しい。同時に、団体生活を通してリーダーシップなど社会に出てからの力の育成にも配慮して欲しい。

○東日本大震災時に保護者として関わった経験がある。緊急時の備蓄管理、生徒の帰宅・留め置き等、保護者との連携を確認して欲しい。

(4) いじめへの対応について

○「いじめや差別を許さない」という環境を作りにおいて、生徒の86.5%が肯定的にとらえており、今後もそのような心を育むことは常に意識をして推進していくことが大切だと思う。

(5) その他

○バスのマナーについては挨拶等しっかりした生徒が多く、近隣小学生のロールモデルとなっている。

○アンケートの回収率：令和3年度回収方法を google forms にした影響で、教職員、生徒共に約7割であった。令和4年度は教職員100%、生徒75.7%と向上している。継続が必要である。